

歯科口腔外科学

1 構 成 員

	平成 27 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	1 人	
講師（うち病院籍）	1 人	(1 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	1 人	(0 人)
診療助教	1 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	6 人	
研修医	2 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	2 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	2 人	
その他（技術補佐員等）	1 人	
合計	18 人	

2 教員の異動状況

- 加藤 文度（教授）（H23.12.1～現職）
長田 哲次（病院准教授）（H24.11.1～現職）
増本 一真（講師）（H22.8.1～現職）
渡邊 賀子（助教）（H22.8.1～現職）
内山 佳之（診療助教）（H25.5.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 26 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	5 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	10.09	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1 編	(1 編)

(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Nagata T, Masumoto K, Uchiyama Y, Watanabe Y, Azuma R, Morimoto Y, Katou E.

Improved technique for evaluating oral free flaps by pinprick testing assisted by indocyanine green near-infrared fluorescence angiography.

J Craniomaxillofac Surg 42: 1112-1116, 2014. [2.60]

2. Nakajima T, Kitagawa K, Ohhata T, Sakai S, Uchida C, Shibata K, Minegishi N, Yumimoto K, Nakayama KI, Masumoto K, Katou F, Niida H, Kitagawa M.

Regulation of GATA binding protein 2 levels via ubiquitin-dependent degradation by Fbw7.

J Biol Chem 2015 in press. [4.60]

3. Nakamura K, Yang JH, Sato E, Miura N, Wu YX.

Effects of hydroxyl groups in the A-ring on the anti-proteasome activity of flavone.

Biol Pharm Bull 2015 in press. [1.78]

インパクトファクターの小計 [8.98]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Matsui A, Matsui K, Handa T, Tanuma Y, Miura K, Kato Y, Kawai T, Suzuki O, Kamakura S, Echigo S.

The regenerated bone equality by implantation of octacalcium phosphate collagen composites in a canine alveolar cleft model. Cleft Palate Craniofac J 51: 420-430, 2014. [1.11]

2. Noritake H, Amin MB, Nakamura K, Islam MJ, Wu YX, Hashimoto S, Uddin MKM, Suda T, Kobayashi Y, Sugimura H, Miura N.

TGF- α , c-MYC, mutated CTNNB1 and their combinations act distinctly on the Hep3B tumors in nude mice. Med J Osaka Univ 56: 11-21, 2014.

インパクトファクターの小計 [1.11]

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

(2-2) レター

(3) 総説

(4) 著書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 加藤文度

今日の治療指針 2015 歯科・口腔外科疾患 口腔の悪性腫瘍 1457-1458. 医学書院

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

4 特許等の出願状況

	平成 26 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 26 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	3 件	(310 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0 件	(0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 長田哲次（代表者） 基盤研究（C） ポルフィリン生合成系タンパクをマーカーとした口腔がんパーソナライズド光線力学療法 90万円（継続）
2. 増本一真（代表者） 基盤研究（C） 口腔扁平苔癬に対する5-アミノレブリン酸を用いた光線力学療法・診断 130万円（継続）
3. 渡邊賀子（代表者） 基盤研究（C） 口腔癌におけるCCR10陽性制御性T細胞誘導による腫瘍免疫回避機構の解明 90万円（継続）

(2) 厚生労働科学研究費

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	0 件
(3) 学会座長回数	0 件	0 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	0 件

(6) 一般演題発表数	0件	
-------------	----	--

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

9 共同研究の実施状況

	平成26年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成26年度
産学共同研究	0件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

- インドシアニンググリーン（ICG）を用いた遊離皮弁の血行評価
遊離皮弁の術後に ICG を用いて、皮弁の血行動態を確認する新しい評価法を確立した。
- 口腔癌における再建外科
拡大切除を必要とする口腔癌の手術において、その術後の機能的、形態的な面から、再建手術を要する症例が多い。遊離皮弁での再建を行った際の機能の回復に関し、検討を行っている。
- 口腔扁平上皮癌における超選択動注化学療法の有用性
術前化学療法として、浅側頭動脈から逆行性にカテーテルを留置し、超選択的動注化学療法を行っている。抗癌剤による治療効果、予後に関し、検討を行っている。
- 口腔扁平上皮癌における免疫細胞の役割
口腔扁平上皮癌の癌巣と間質に着目し、それぞれに局在する免疫細胞に関する検討を行っている。

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

15 新聞、雑誌等による報道